

胎児発育不全（Fetal growth restriction: FGR）について

○どんな病態？

同じ週数の赤ちゃんの平均体重に比べて明らかに推定体重が小さいことを言います。子宮内で赤ちゃんの成長がゆっくりになる、もしくは止まってしまう状態です。FGRの場合、妊婦健診では胎児の体重だけでなく、先天異常の有無、羊水量、胎児の血流を確認し、慎重にフォローします。

○原因

以下の理由が考えられますが、原因不明のことが多いとされています。

- ・妊娠高血圧症候群：詳細については別ページをご参照ください。
- ・感染：妊娠中に TORCH 症候群(トキソプラズマ、梅毒、サイトメガロ、ヘルペス感染症)に代表される感染が起きることで、FGR になることがあります。
- ・胎盤・臍帯の異常：胎盤はお母さんと赤ちゃんが栄養や酸素をやり取りする場所で、臍帯（いわゆるへその緒）は胎盤と赤ちゃんをつないでいます。胎盤の形成異常や臍帯の付いている位置がおかしい（臍帯付着異常）でも FGR になることがあります。
- ・染色体異常：児の染色体に異常がある場合（13 トリソミー、18 トリソミーなど）、胎児発育不全になることがあります。
- ・妊娠中のアルコール摂取・喫煙



○治療

FGR に対する根本的な治療法はありません。母体の病気が原因の場合、それに対する治療を行います。

小さいだけでなく成長がみられない場合、羊水量が少ない場合、胎児の心拍モニタリングで異常がある場合、血流に異常がある場合には入院管理となります。そのため FGR がみられた場合、健診の間隔がより頻回になったり、健診時に血流の測定や胎児心拍モニタリングを行うことがあります。

分娩時期に関しては週数や赤ちゃんの心拍や血流、羊水の量などを踏まえ総合的に判断します。普段の生活において胎動に注意していただき、胎動がいつもより少ないなどの変化があった際は、いつでもご連絡ください。

外来通院の場合、健診間隔を短くしたり、健診時に血流測定や胎児心拍モニタリングを行うことがあります。胎児の成長がみられない場合（発育停止）、胎児心拍モニタリングで異常がある場合、血流に異常がある場合には入院管理となります。

分娩時期に関しては週数や赤ちゃんの心拍や血流、羊水の量などをふまえ総合的に判断します。